

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	基本情報対策講座2	
科目基礎情報					
開設学科	情報処理科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	45時間
単位数	3単位	授業形態	講義		
教科書/教材	資料を配布する				
担当教員情報					
担当教員	齋藤 / 塚本 / 松谷		実務経験の有無・職種	有・運用エンジニア / システムエンジニア	
学習目的					
基本情報技術者試験はIPAが主催する国家資格の一つであり、高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けたことを証明する資格である。本資格には午前試験免除制度がある。これを取得することによって、本来一日で午前試験(150分)と午後試験(150分)を受験しなければならないところ、午後試験(150分)のみを合格することで基本情報技術者試験を合格とすることができる。よって、この午前試験免除制度を合格できるよう対策を行っていく。					
到達目標					
基本情報技術者試験のテクノロジ分野(基礎理論、アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術)、マネジメント分野(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査)、ストラテジ分野(システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、企業活動、法務)のうち過去に出題された問題を重点的に理解する。					
教育方法等					
授業概要	基本情報技術者試験の必要性、午前試験免除制度を利用した場合としていない場合の合格率に明確な開きがあることを理解させる。各授業の前半では基本情報技術者試験の過去問を解き、自身の解答を見直す。その後に不正解が多かった問題について重点的に解説を行い、理解を高める。早く過去問を解き終わった学生に対しては適宜質問を受け付け、個別に解説を行うことで全学生が効率的な学習を進められるように実施していく。				
注意点	過去問に対して適当な解答をしてしまうと誤答者の多い問題が適切に選び出せずに解説の効果が薄くなるため、一生懸命に過去問に取り組むことを重要視している。また、社会への移行を前提とした受講マナーで参加し、講義中の私語や受講態度などには厳しく対応する。（詳しくは初回の講義で説明する。）理由のない遅刻や欠席は認めない。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受講することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	0%			
	課題	50%	過去問における取得点数の増減を基に評価する		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	50%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス、基礎理論		本講義の意義を理解する。また、試験概要、出題範囲について知る。基数変換、負数表現などの知識確認をし、過去問題を解くことができる		
2回	アルゴリズムとプログラミング		情報技術者試験における頻出アルゴリズムを覚え、過去問題を理解して解くことができる		
3回	ハードウェアと構成要素		コンピュータの種類や動作原理、周辺機器の種類と役割について学び、過去問題を理解して解くことができる		
4回	マネジメント		システム開発の流れ、PM、監査、サービスマネジメントについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
5回	ソフトウェア		計算問題を中心に学び、過去問題を理解して解くことができる		
6回	データベース		SQL、DBマネジメント、正規化などについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
7回	ネットワーク		ネットワーク方式・データ通信と制御・通信プロトコル・ネットワーク管理・ネットワーク技術について学び、過去問題を理解して解くことができる		
8回	セキュリティ		モラル、セキュリティについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
9回	システム開発技術		システム開発技法について学び、過去問題を理解して解くことができる		
10回	ストラテジ		企業活動の目的や経営管理、組織についてや、企業会計や労働、取引関連法規について学び、過去問題を理解して解くことができる		
11回	過去問題演習(1)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（ストラテジ系の対策を万全にする）		
12回	過去問題演習(2)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（マネジメント系の対策を万全にする）		
13回	過去問題演習(3)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（テクノロジ系の対策を万全にする）		
14回	過去問題演習(4)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（午後問題対策を万全にする）		
15回	過去問題演習(5)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（総合問題演習を行い合格ラインの点数を取る）		